

戦後支那を中国と呼ぶようになった理由

(個人)

〔回答〕

昭和21年4月26日、中華民国在日代表部より終戦連絡中央事務局に対し、従来の支那、満州の呼称を用いないようにとの通告があり、これを受けて外務省は、各省次官、書記官長、都道府県の終戦連絡事務所等の諸機関あてに「支那の呼称を避ける事に関する件」なる同年6月6日付の次官通達を発しております。

また、同日付で、各新聞社、雑誌社等の報

道関係者に対しても「中華民国の呼称に関する件」という外務省総務局長よりの通達が出され、通告の主旨徹底がはかられております(以上外務省アジア局中国課調べ)。

こうしたいわば公式の経緯とは別に、新聞、雑誌等では戦後いち早く「支那」という呼称を避けて「中国」と呼び変えたことが当時の記事からうかがわれます。

しかし中国人が何故従来の支那なる呼称を嫌悪し、その使用を禁止するに至ったか、この点について明確な資料は見当りません。

ただ、昭和27年頃にも、国内でこの呼称問題が論議されており、朝日新聞(東京)昭和27年12月17日、21日、30日付の記事などは、当時の代表的意見と思われれます。

5 号 予 告

戦時下「キリスト教迫害に関する資料」について
 小宮山楓軒叢書について
 大阪市立中央図書館の文書レファレンス
 国際連合の書誌活動(続)
 アンデルセン書誌
 プロシーディング目録について
 古書古人(2)
 千葉県下の特殊コレクション

藤 尾 正 人
 丸 山 季 夫
 西 田 文 男
 石 川 光 二
 石 川 春 隆
 田 中 江 子
 石 山 洋 保
 森 田